

木育かわら版は森林環境譲与税が使われています

CONTENTS

- 「みやざき木育マスター」認定証交付
令和6年度「みやざき木づかい」感謝状贈呈 … 1
- 「マイ箸」作りスタートアップ … 2,3
日常の木育「マイ箸」作り
- 宮崎工業高校インテリア科 木育教室 … 4

「みやざき木育マスター」認定証交付 令和6年度「みやざき木づかい」感謝状贈呈

日時:令和6年10月24日(木) 14:00~16:00 場所:宮崎県庁本館 講堂

今年度認定された「みやざき木育マスター」に河野知事より認定証が交付されました。また、県産材の「木づかい」に貢献した普及啓発(活動等)部門3者、人材(設計者等)部門1者、施設部門4施設に感謝状が贈呈されました。



▶「みやざき木育マスター」認定証交付

当日は県央担当の緒方さん、県北担当の家村さんに、知事から「みやざき木育マスター」の認定証が交付されました。(県南担当の匹田さんが欠席)

みやざき木育マスター
家村 祐香 さん(県北)
緒方 由紀子 さん(県央)
匹田 翔 さん(県南)



▶令和6年度「みやざき木づかい」感謝状贈呈

普及啓発(活動等)部門

日之影町林業研究グループ
有限会社イムラ
ヤマワ木材株式会社

人材(設計者等)部門

堀正製材・建設

施設部門

日向市立 東郷診療所(日向市)
児湯広域森林組合 本所事務所(西都市)
ひなた宮崎県総合運動公園屋内走路(宮崎市)
道の駅きたごう(日南市)



人材部門で表彰された堀正製材・建設様、普及啓発部門で表彰された有限会社イムラ様と施設部門の1者が事例発表を行いました。

「マイ箸」作りスタートアップ

日常保育の中で継続して行うプログラム「マイ箸」作りがスタートしました。
第2期のモデル園である2園の取り組みをご紹介します。

ひかりの森こども園(三股町)

日時:令和6年9月10日(火) 10:00~11:00
場所:ひかりの森こども園(三股町)
参加者:16名(園児5名、地域サポーター7名、保育者4名)

▶導入

保育者が事前に作ったお箸の見本を見せて、今日作るお箸の材料はヤマザクラであること、これから自分のお箸を作ることを説明しました。



▶作業の流れ、道具の注意点

まずは、お箸作りの流れと注意点を説明し、今回使う道具(のこぎり)は、前回のチョロ船作りの時に学んでいますが、怪我をしないように使い方をおさらいしました。

お箸を磨く時に注意することは「姿勢」です。正しい姿勢がバランスの良いお箸になることを説明しました。



▶お箸の長さ決め

マイ箸の理想的な長さは、親指と人差し指を直角に広げた時の人差し指の先から親指の先までを結んだ長さ(一咫(ひとあた)半)です。地域サポーターである保護者に協力して頂き、園児の一咫(ひとあた)半の長さを測りました。



▶お箸の長さ切り

長さを決めた後は、園児が自分の手の大きさに合う長さののこぎりを使って切りました。



▶成形

紙やすりで成形しました。今回はここまでで終了し、今後は日常保育の中で継続していきます。



～日常の木育「マイ箸」作り～

日常保育で継続的に行っている年中児後期木育プログラム「マイ箸」作り。モデル園の木育を監修して頂いている松井先生、吉田先生が園児のお箸作りの製作状況確認を行い、保育者と意見交換を行いました。

指導:木育実践研究者、元岐阜県立森林文化アカデミー教授 松井 勲尚 先生
ぎふ木育推進員、岐阜県立森林文化アカデミー非常勤講師 吉田 理恵 先生

日時:令和6年11月6日(水) 9:30~10:30
場所:ひかりの森こども園(三股町)
参加者:6名(保育者3名、事務局3名)

ひかりの森こども園は、園の保育スタイルが自由保育のため、教室の中にお箸作りの材料を置いたコーナーを設けて、お箸作りをやりたい園児が自由に自分のお箸を取って磨くような流れで進めています。松井先生、吉田先生には日常保育で実践している状況を見てもらいながら改善点等について指導して頂きました。



あやめ原こども園(都城市)

日時:令和6年10月2日(水) 10:00~11:00

場所:あやめ原こども園(都城市)

参加者:30名(園児15名、地域サポーター9名、園長、保育者6名)

▶振り返り

陸上競技場のお散歩で見た木や県木材利用技術センターへ行った時に見た木でできたものなどをスライドを見て、園児に問いかけながら振り返りを行いました。



▶紙芝居

マイ箸作りの紙芝居の読み聞かせを保育者が行いました。



▶お箸作り説明

マイ箸作りの全体の流れを説明し、お箸の長さ決めの説明と、のこぎりの使い方を現物を見せながら丁寧に説明しました。



▶お箸の長さ決め

お箸の理想的な長さである長さ(一咫(ひとあた)半)。長さ決めは、地域サポーターになってくださった、保護者や地域の高齢者の方に協力して頂き、園児の一咫(ひとあた)半の長さを測りました。



▶お箸の長さ切り

マイ箸の長さが決まった後、のこぎりで切りました。



(園児の感想)

- ・のこぎりを切るのが面白かった。
- ・測ったりして楽しかった。
- ・持って帰るのが楽しみ。
- ・いっぱい頑張ったけど、疲れた。
- ・お母さんとのこぎりが切れて楽しかった。

(保育者のコメント)

- ・木に触れてにおいを嗅いだり、仲良くなると良い。
- ・モノを作ることは大変なことなので、その分大切にしたい。
- ・今日作業出来たのは、地域サポーターのおかげである。
- ・これからも少しずつであるが、丁寧に箸作りを進めたい。

日時:令和6年11月6日(水) 10:45~11:45

場所:あやめ原こども園(都城市)

参加者:12名(園長、保育者4名、見学4名、事務局3名)

あやめ原こども園では月1回ペースでお箸作りの時間を設けて実施しています。普段進めているお箸作りの状態を見て頂き、松井先生、吉田先生に改善点等について指導して頂きました。

また、第1期モデル園(四季の森こども園)の保育者も見学を訪れ、指導方法等についてアドバイスを頂きました。

松井先生より

箸づくりは、剣道に似ています。箸を削るその握り方や構え方、何より姿勢を整えることが大切です。ガムシヤラに削るのではなく、相手(木)のことを気遣いながら、力を加減しながら、繰り返し向き合う時間を、一人一人無理のない時間で進めてください。



吉田先生より

保育者の皆さんも、立ち止まってみる時間もないほど日々の営みに追われている中で、ゆっくりと「もの」や「子ども」に向き合う時間を作るきっかけが「お箸づくり」だと思います。そのきっかけに「マイスター」が寄り添う。それが「みやざき木育」が持続可能な取り組みになる一歩になると期待しています。

宮崎工業高校インテリア科 木育教室

① 林業・木材産業見学ツアー

日程:令和6年10月15日(火) 8:30~16:30
視察先:(株)松岡林産伐採現場(宮崎市大字鏡州)、宮崎県木材利用技術センター(都城市)
都城木材(株) 三股工場(三股町)、ランバー宮崎協同組合(宮崎市高岡町)
参加人数:42名(生徒34名、引率4名、事務局4名)

木育活動の一環として、宮崎工業高校インテリア科2年生を対象に、地域の循環資源である木材をテーマに伐採現場・木材加工企業等の現場見学会を実施しました。



(株)松岡林産 伐採現場

会社概要の説明を聞いた後、資源の循環利用や森林の多面的機能などの説明を聞き、高性能機械の作業の様子を見学しました。



宮崎県木材利用技術センター

センターで取り組んでいる研究内容を紹介する展示コーナーを見学しました。

都城木材(株)三股工場

会社の概要説明を聞いた後、製材工場を見学しました。工場では原木から製材、乾燥、製品等を見学しました。質疑応答では、乾燥期間に関する質問等がありました。

ランバー宮崎協同組合

会社の概要説明を聞いた後、プレカット加工工場を見学しました。質疑応答では、在来工法と軸組工法ではどちらの方が注文が多いのか等の質問がありました。

② 生徒向け事後学習会の実施

日程:令和6年11月19日(火) 13:35~15:25
場所:宮崎工業高校 インテリア科実習室
参加人数:43名(生徒34名、企業代表2名、教員4名、事務局3名)
企業代表:都城木材(株) 営業課長 田平 浩史 氏
ランバー宮崎協同組合 韓国担当・通訳 キム・ヘヨン 氏

10月に見学ツアーを行った後、11月に企業の方を学校に招いて、学びの発表と意見交換会を実施しました。

(株)松岡林産

生徒から、スギを伐採する基準について質問がありました。樹齢が優先ではあるが、管理状況が異なるので、山によっては高さや太さが優先されているところもあるとの答えがありました。また、高性能機械のフェラーバンチャーとハーベスタの違いについて質問があり、ハーベスタが木を伐る機械でフェラーバンチャーは立木を掴んで切り倒すことができることを教えて頂きました。



都城木材(株)

木材の加工について初めて知ることが多く、加工から納材までの流れを知ることが出来た、作業工程の中で使用される機械の多さに驚いたとの感想がありました。

また、木材から加工が完了するまでの時間に関して質問があり、材の種類や厚さ、樹種によっても違うことを教えて頂きました。やりがいに関する質問には、都城ブランドが広がること、社会貢献できていることを感じた時にやりがいを感じると答えがありました。

ランバー宮崎協同組合

現場見学をして手作業で加工とは違い早く出来上がることに驚いたとの感想がありました。また質問では、業界で働いていることのメリットとデメリットについての質問がありました。木の香りに包まれながら仕事ができることがメリットでアレルギーのある職員は苦勞しているのがデメリットであるとの答えがありました。

講評

生徒の発表後は、企業の皆さんから「生徒の皆さんのプレゼンを聞き、懸命に調べて準備しているのを感じました。」「工場見学をしてどう思われたのかが分かり良かったです。」「高校生が林業をどのように見ているのかが分かり良かったです。このまま、引き続き林業・木材産業の勉強をして欲しいです。」などの講評を頂きました。

木育ネットワーク部会とは

豊かな森林を次世代に引き継いでいくには、県民一人ひとりが、木材の良さや利用することの意義について理解と認識を深め、県民全体で県産材の地産地消に取り組むことが重要であることから、みやざき木づかい県民会議を平成25年2月に設置し、木づかい運動を進めてきました。

木づかい運動を進めるうえでは、子どもたちを中心に木に触れ親しむ機会や、森林、林業、木材、資源循環について分かりやすく伝える機会を創出する木育活動を進めることが非常に大切であることから、木育に積極的に取り組む企業・団体・行政などの参画による木育ネットワーク部会を設置しました。

■発行 宮崎県森林林業協会 ■編集 miyamokku

■事務局 みやざき木づかい県民会議 木育ネットワーク部会(宮崎県森林林業協会・宮崎県山村・木材振興課みやざきスギ活用推進室)

■住所 〒880-0802 宮崎市別府町3番1号 宮崎日赤会館2F ■TEL 0985-27-7682 ■FAX 0985-25-2398



木に触れて、木と遊び、木を学ぶ